

Press Release

2020年11月2日

【開催告知】弘前れんが倉庫美術館 2021年度プログラム

春夏プログラム「りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed」(仮)

会期：2021年4月10日(土) - 8月29日(日)(予定)

秋冬プログラム「りんご前線—Hirosaki Encounters」(仮)

会期：2021年9月18日(土) - 2022年1月30日(日)(予定)

開館2年目を迎える2021年度のプログラムは、ケリス・ウィン・エヴァンスによる当館のための新作コミッションワーク(委託制作)を基点に、複数のアーティストの作品からなる展示を、春夏プログラムを第一部、秋冬プログラムを第二部とする通年の企画で構成します。

英国・ウェールズ出身で世界的に活躍するアーティストのケリス・ウィン・エヴァンス(1958年～)は、2019年に弘前を訪れリサーチを行いました。そこで出会ったりんごに着想し、その断面のフォルムから万有引力の公式、惑星の軌道といった象徴的なイメージやモチーフをグラフィカルに組み合わせた巨大な灯(ともしび)、あるいは光のトーテムのような作品を生み出しました。まるで、美術館の吹き抜け空間を照らすかのようなネオン管を使った巨大な彫刻作品は、「植物としてのりんごの生」、「りんごからシードルへの加工・生産の残像」、「原罪の比喻(欲望・原動力)」、「ユリイカ(わかった!)の瞬間」、「ニュートンの万有引力から導かれる宇宙の自然法則、太陽の周囲をめぐる軌道」など、りんごをめぐる思考が発想の元となっています。

第一部では、現代アーティストらの多様な作品を通して、科学から神話など、りんごをめぐる豊かな思考と想像を発展させます。続く第二部では、大きな気象の変化をおこす異なる気団の境界・交線や、運動の第一線などを意味する「前線」をキーワードに、異文化の出会いから生まれた作品のほか、りんごの土壌である弘前の土地に関する作品や、弘前ゆかりのアーティストらの活動に注目します。このように、ひとつの作品を核として異なるテーマのもとに二部構成で展示を行うことで、より自由な展示のリズムと空間の使い方を探るとともに、作品の多様な解釈を促します。また、会期中には、本展と連携した「弘前エクステンジ」のプログラムの実施も予定しています。



ケリス・ウィン・エヴァンス 《...the Illuminating Gas》
Exhibition view at Pirelli HangarBicocca, Milan, 2019.
Courtesy of the artist and Pirelli HangarBicocca, Milan.
Photo: Agostino Osio [参考図版]

【アーティスト紹介】 ケリス・ウィン・エヴァンス / Cerith WYN EVANS

1958年英国、ウェールズ生まれ。英国、ロンドン在住。80年代から実験的な映像作品を手がけ90年代以降はネオン、音、鏡などを用いて制作。哲学や音楽、天文学、物理学など多様な分野に基づく作品は、国際的に高い評価を得ている。各国の主要美術館で個展を行っており、2019年は巨大な展示空間で知られるミラノのハンガービコカにて個展を行った。第50回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展ウェールズ館代表(イタリア、2003年)。ヘップワース彫刻賞受賞(英国、2018年)。主な所蔵先にテート・ブリテン(英国)、スコットランド国立美術館(英国)、ニューヨーク近代美術館(米国)など。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川(公)

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1